



秀頼公
 五歳成
 將軍職
 就兼り
 度々之
 遣はる
 及ばず
 片桐等
 其違約
 を憤れ
 共是非
 を以て
 時節と
 見合す



故是を頼幼
 君の為ありと申
 遣はれぬ真田
 父子味方三属す



大谷刑部ハ
 幸村ク舅ヨリ
 て義心強き者

大谷刑部

大谷刑部

大坂の争い



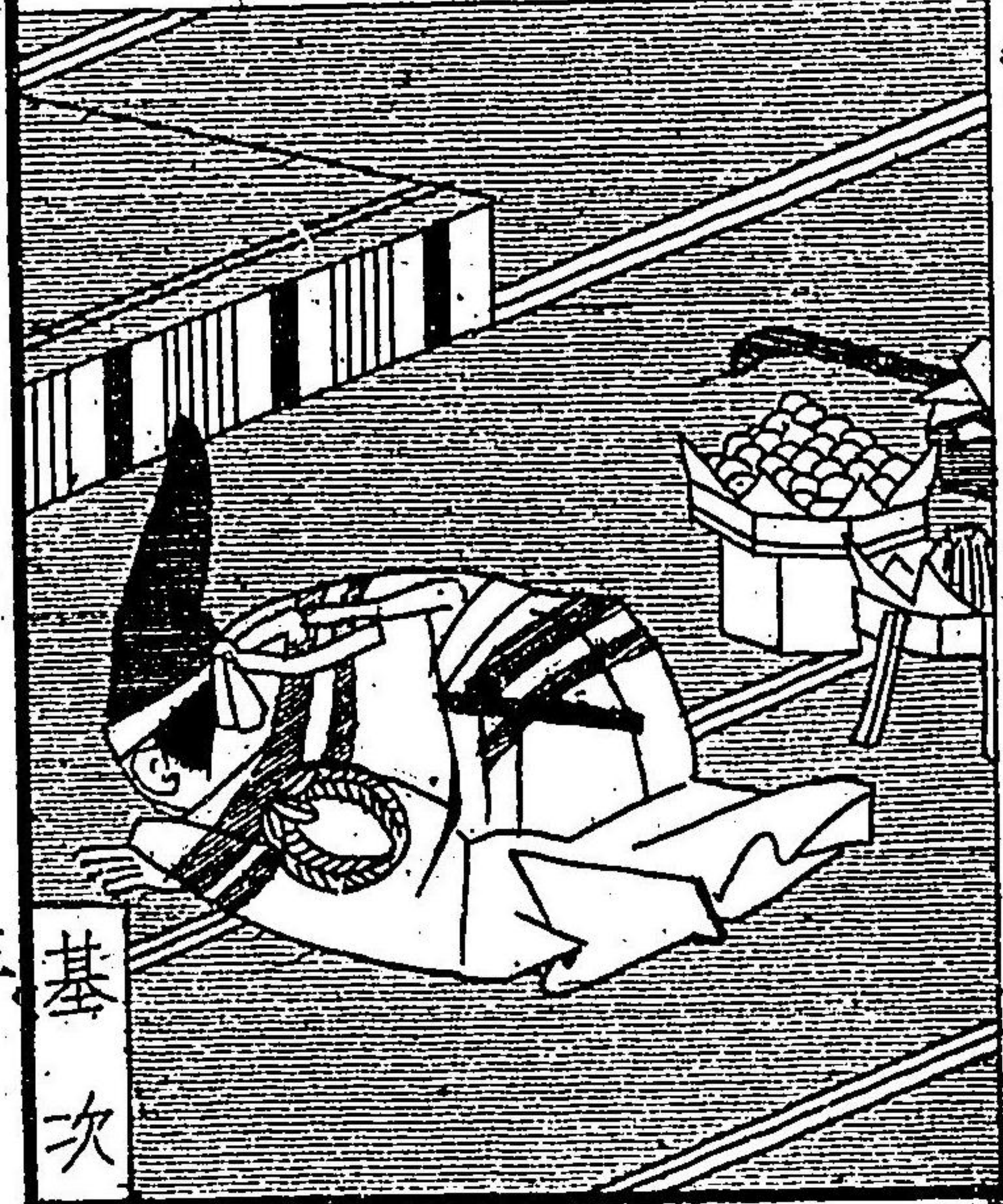
大坂関東
和時の時秀
頼公の供まで
加藤片桐福
島寺関東三
下向す家康
公自饗應で
茶席よ是を
慰む



大坂の争い

大坂本平言

後藤基次黒田
家又仕へ関ヶ原
の戦又主と諫め
用られず暇を乞
流浪し後よ
片桐の招きよて
秀頼公に仕ふ



基次



秀頼公

大坂太平記

且元



片桐且元大坂を退くと聞き木村重成馬跡を追ひ且元を慰む且元涙を浮め真田後藤の事を語りぬ

木村重成



大坂太平記



真田幸村

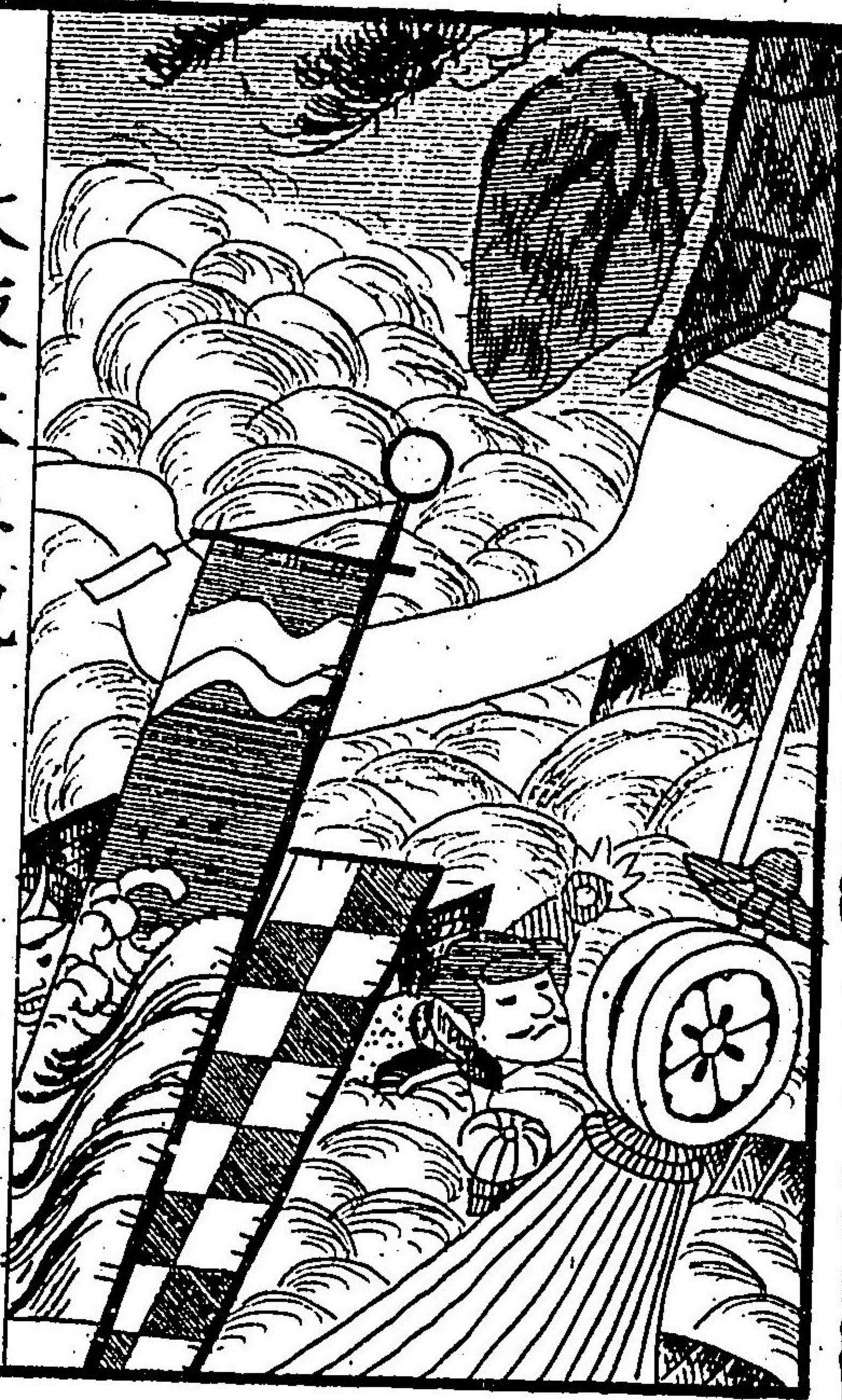
五

真田幸村ハ大助マ向ヒ
汝ヨクサケ渡刃ハ兵モ三手
伏せて味方と導ク汝返つて
穴山深谷を伏ふハ二度目ハ
渡辺を討取へーと誠む

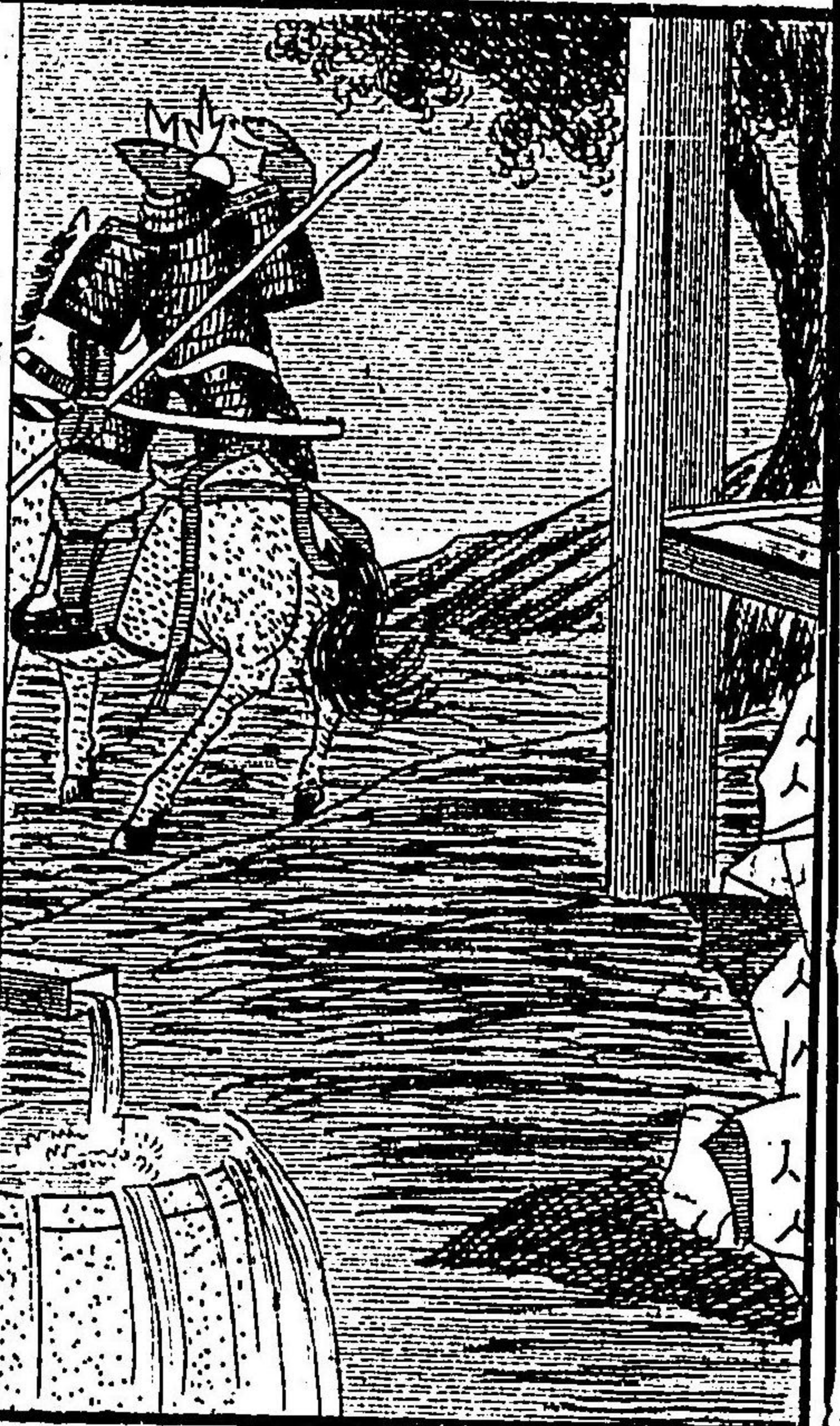


真田大助

真田幸村知計を以て
関東の大兵を大に破り
嫡子大助河内守
兩雄弓勢を顯し
敵味方ノ目を驚
す



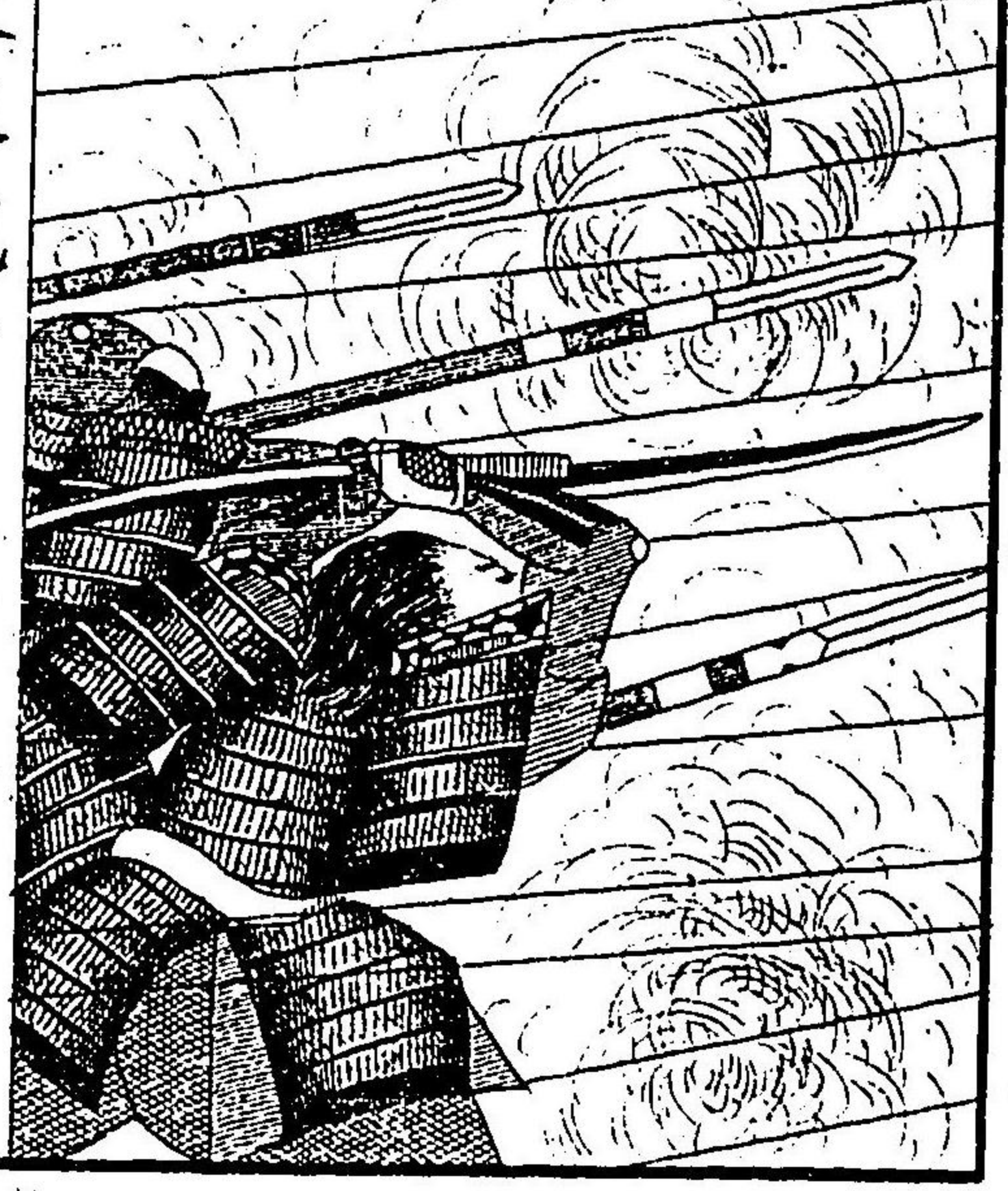
いへやす、つてもむい
 家康公ハ幸村
 おい、やりあ
 又追き酒井を
 供して大道村ニ
 入り路傍の茅屋
 へ立入り暫時穩
 一吳と云家の主
 箒の下へ穩す





薄田隼人

薄田隼人八元岩
見重太郎あり
田山は押寄する敵
と四角八面を斬
り入り猶道明
寺を將軍を討んと
す幸頭と屠服す



大坂の陣

長曾我部元親
關東勢七万余の
内一斬入勇を
震ふる老功古今
獨歩の勇將
あり

長曾我部元親



大坂の陣



將軍平野を見廻り玉ふせつ真田謀計伏兵を置大砲を打甚危険あると彦左門將軍を脅買て救ひ奉る



家康公

大久保彦左門

將軍閣かり峠を
 逃延ひ玉ふ河内
 守兄弟危嶮の
 場所あると知り深
 く諫む將軍危難
 き遁せし后兄弟を
 大に賞誉す



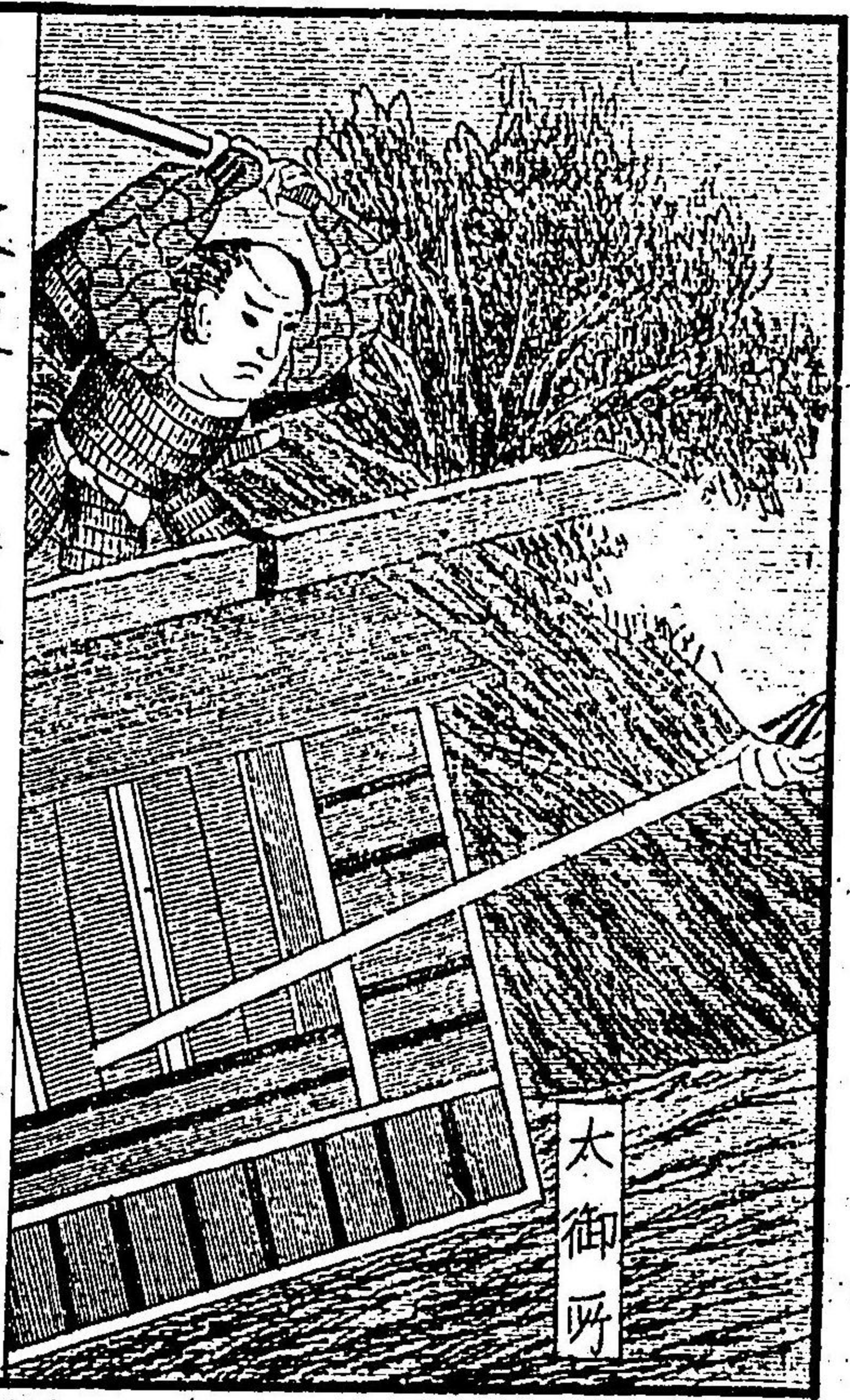
將軍



後藤基次國
松君を母衣に包
み脊負ひ駕
籠と目かけ槍
を切る彦左門
飛来り其槍
を切落す



後藤基次



大御所

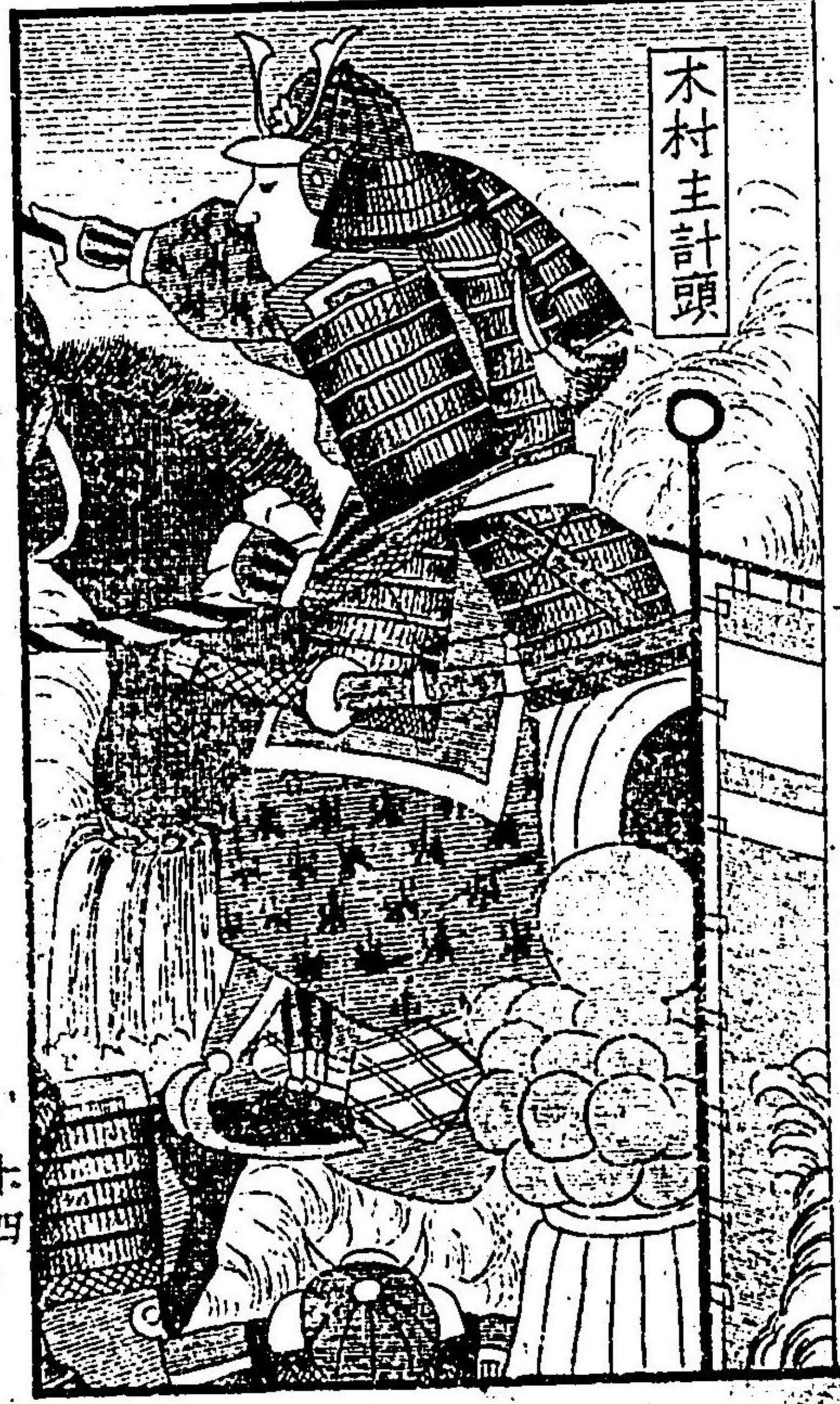


本多忠朝



本多忠朝真田幸村勝負と争ふ幸村謀て古井の中ニ落つ忠朝討んとす
るを井の中より突出す槍ニ忠朝死す

木村主計頭

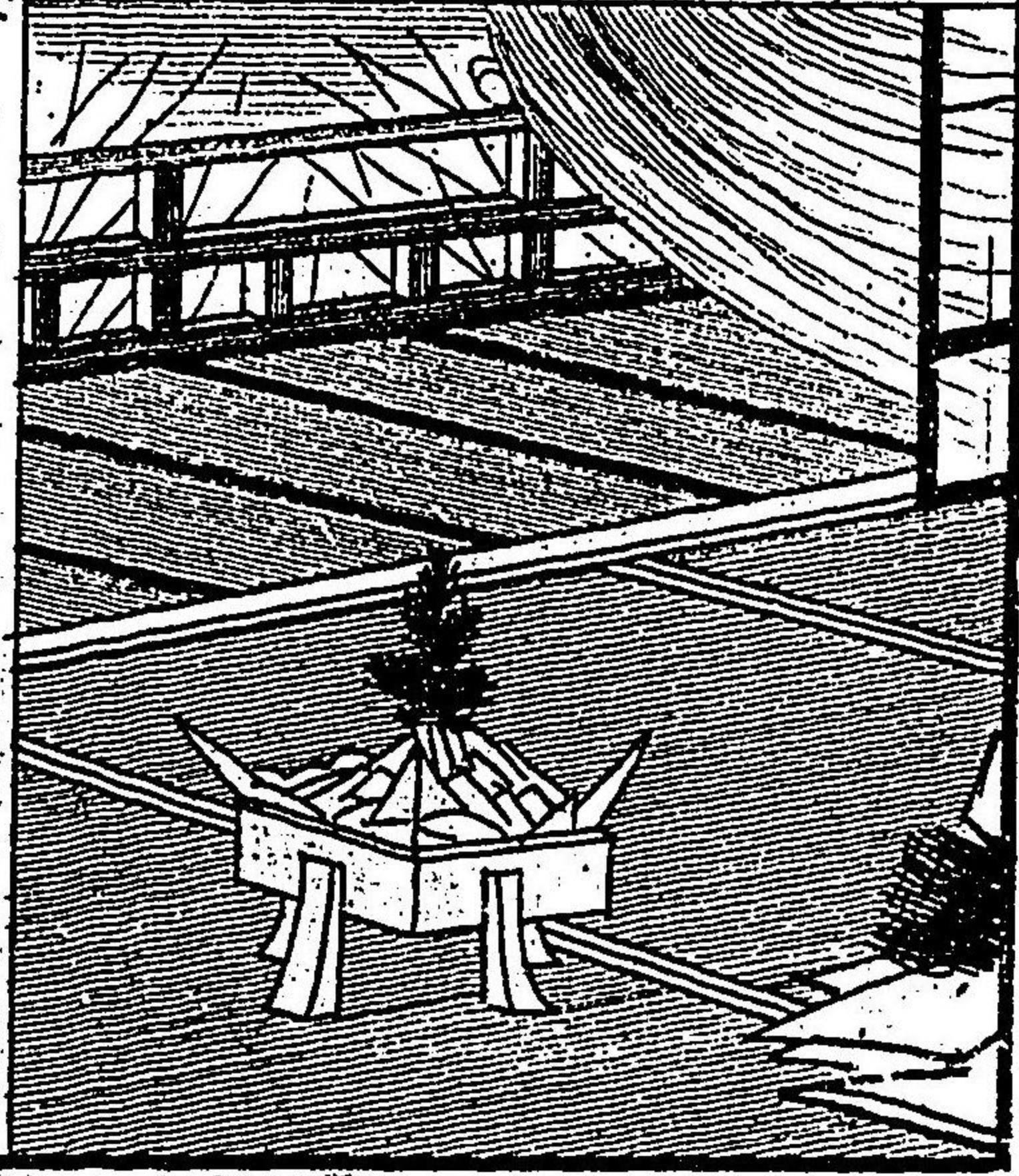


こゝろひでまり
爰も秀頼あり
と切て出る者
これ木村主計頭
あり其勇尤も
烈敵の目と
驚す秀頼公の身
二代リ屠復て死す





おくらつねおとどいの
 大藏の局淀殿
 一降を進む正
 栄尼木村主計
 怒て一と間よ焼
 殺んとす淀殿
 是非あく自
 害す

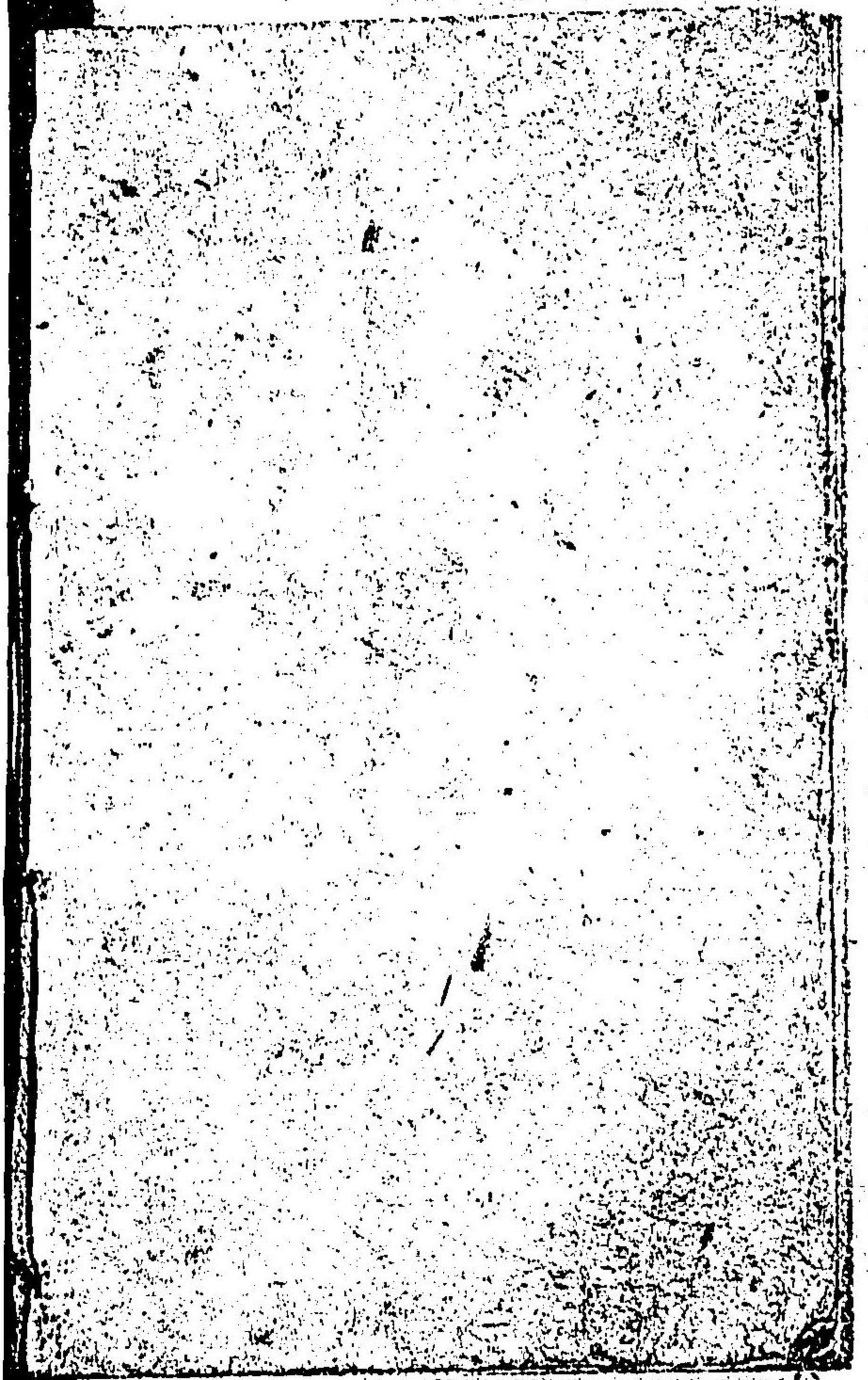


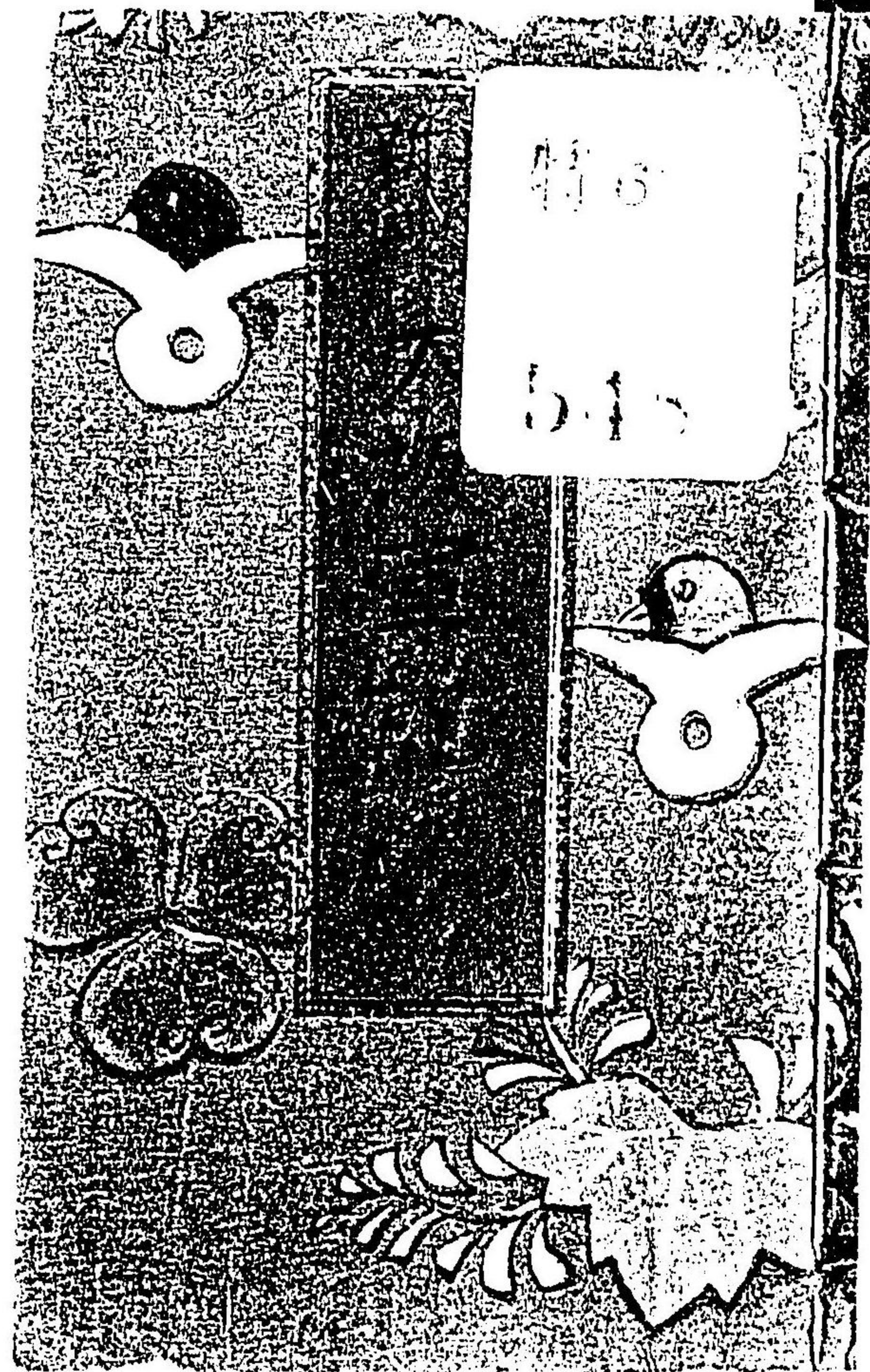
秀頼公大坂落城
 の世つ自盡すと
 諺云共其實
 薩州へ没落す
 とりよ



明治十八年二月五日出版御届
 同年同年廿日出版
 編輯兼
 出版人
 東京浅州區南元町十二番地
 牧金之助

新編
 七
 卷





415

515